

# こどもを守る小山神社

たけむら きみこ  
竹村 公子

秦 小学校のすぐ北がわに、小山神社という小さな神社があります。

この小山神社は、ずっと昔、愛宕山を通る人々を守るために、祭られた神様だということです。

昔の愛宕山は、人家もなく、木々がうっそうとしげり、鳥や獣や、もしかして妖怪もいるかもしれないと、大変恐れられている山でした。

そこで人々は、神様に、

「どうぞ無事に、通してくださいませ」

「恐ろしい獣や、妖怪が、出てきませんように。」

とお祈りして、大急ぎで愛宕山を通りすぎました。

そのせいか、誰も獣におそわれたり、妖怪にさらわれ

たという話は、ききませんでした。

そのうち時代も進んで、秦地区にも家がふえ、子どもが増えて、学校も広げることになりました。

そして学校のすぐそばにあった小山神社は、山の方に移そうということになりました。

ところが、小山神社の神様は、

「通る人々を守る役目は終わっても、小学校がある限り、学校のそばで、子どもたちを守っていかねばならない。」

学校のそばでなければ絶対移転はしない。」

と、どうしても言うことをききません。

そこで元の場所から少し動かして、今の場所、秦小学校のすぐ北側に、小山神社は移りました。

大通りからは見えませんが、小さな境内には、大きな杉もあり、楠木・公孫樹・桜などの木が植わっていて、

祠の片方には、お地藏さんもたくさん並んでいます。

それにしても、学校のすぐそばの小さな祠から、いつも子どもたちのことを見守ってくれている神様がいらっしゃるなんて、なんとしあわせな秦小学校なのでしょう。

(『秦の昔話』「子どもを守る小山神社」から)